

視 察 研 修 等 報 告 書

令和7年2月18日

坂井市議会

議 長 戸 板 進 殿



会 派 名 志 政 会
報 告 者 後 藤 寿 和

1. 日 時 令和7年1月29日(水)～1月31日(金)

2. 視察研修先
- (1) 長崎市役所
長崎県長崎市魚の町4-1
 - (2) 柳川市役所
福岡県柳川市本町87番地1
 - (3) ボートレーサー養成所
福岡県柳川市大和町大坪54-1

3. 視察研修内容
- (1) 長崎市議会のICT化の取り組みについて
 - (2) 柳川市の観光振興について
 - (3) 競艇事業および競艇選手の育成について

4. 参加者 古屋信二、上坂健司、後藤寿和(政友会川畑孝治議員・伊藤宏実議員、政新さかい辻人志議員同行)

5. 内容詳細

29日(水) 長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市議会のICT化はタブレット活用だけではなく、議場のモニター設置、字幕表示や資料の映し出し等、委員会の会議録に資料等の公開、また本会議は生中継とLIVE配信、そして録画中継も行っていました。

坂井市議会もLIVE配信等を議論している最中であり、先進議会の視察をしました。

30日(木) 柳川市の観光振興について

福岡県柳川市は、観光産業の持続可能な発展を目指し、2024年3月に「柳川観光2025指針」を策定しました。

この指針は、2019年に策定された「第2次柳川市観光振興計画(2019-2028)」を基に、新型コロナウイルス感染症の影響や観光トレンドの変化を踏まえて見直されたものであり、指針の主な目的は、「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」の三方よしの持続可能な観光まちづくりを実現することです。

水路「掘割」を中心とした街並みや川下り、うなぎ料理など、多くの観光スポット

を有しており、これらの魅力をさらに高め、観光客の滞在時間を延ばし、回遊性を高める取り組みを視察研修していきました。

31日（金）競艇事業および競艇選手の育成について

福岡県柳川市に位置するボートレーサー養成所は、日本で唯一のボートレーサーを育成する全寮制の施設です。

この施設では、ボートの操縦技術やモーター整備の技術を学ぶだけでなく、共同生活を通じて社会人としての基本的なマナーや規律も学んでおり、坂井市からも何人ものレーサーを輩出しています。

養成所での生活や訓練内容、そしてプロのレーサーになるための施設を視察研修してきました。

6. 所見・感想等

【 古屋 信二 】

29日（水）長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市議会のICT化に関する取り組みは、非常に前向きで現代的な改革だと感じます。特に、AI 会議録作成システムや会議録作成業務の効率化、字幕表示システムの導入は、市民にとっても大きなメリットをもたらすと考えます。

○AI 会議録作成システム

議会での議事録作成は通常、時間と労力を要する作業ですが、AI を活用することで、議事録作成の効率が大幅に向上します。これにより、議会の活動を迅速に市民に伝えることができ、透明性が増すとともに、会議終了後すぐに議事録を確認できるという利点もあります。また、AI による音声認識や文書作成は、人為的なミスを減らし、正確な記録を残す手助けとなります。

○会議録作成業務の効率化

会議録作成業務の効率化は、議会の運営において非常に重要な改革です。従来、手作業で行っていた部分を自動化することで、時間の短縮と作業負担の軽減が期待できます。この改革により、議員やスタッフは本来の職務に集中しやすくなり、議会の質が向上することが期待されます。

○字幕表示システム

字幕表示システムの導入は、特に聴覚に障害のある市民や外国語を話す市民にとって非常に有益です。リアルタイムでの字幕表示は、議会の内容をより多くの市民が理解しやすくし、参加意識を高める手助けとなります。市民とのコミュニケーションのギャップを埋め、より多くの人々が市政に関与できる環境を作る点でも重要なステップだと感じます。

○総評

全体的に、これらのICT化の取り組みは、長崎市議会の透明性や市民参加の向上に大きく寄与すると考えます。テクノロジーを積極的に活用することで、議会の効率化や市民への情報提供が迅速かつ正確になるだけでなく、より多くの市民が政治に関心を持ちやすくなることを期待しています。坂井市においてもICT技術を活用した改革が進むことを期待したいです。

30日(木) 柳川市の観光振興について

柳川市の観光動態調査結果を踏まえた体験型観光や滞在型観光、そして滞在時間を延ばす取り組みに関する感想について考えると、非常に重要な方向性だと感じます。柳川市は歴史的な街並みや自然の魅力、伝統文化などが豊富な地域ですので、観光の質を高めるために、ただ観光地を訪れるだけでなく、もっと深く、長くその魅力を体験してもらうことは大きな意義があると思います。

○体験型観光の推進

体験型観光は、観光客に地域の文化や自然に直接触れてもらうことで、より深い満足感を提供できる点が魅力的です。柳川市なら、例えば柳川川の舟遊びや、伝統的な料理作り、和紙作りや陶芸体験など、地域に根ざした体験を提供することができます。観光客はただ観光地を訪れるだけではなく、その地域の人々と触れ合い、伝統や文化を学ぶことができます。こうした体験型のアクティビティは、単なる観光の枠を超えて、観光地への愛着や深い理解を育むきっかけとなるでしょう。

さらに、体験型観光は SNS や口コミなどで広まりやすく、観光地の魅力を新たな視点で発信できる点でも有効です。特に若年層の観光客にとって、インスタグラムなどでシェアできるようなユニークな体験は、非常に魅力的な要素となります。

○滞在型観光の促進

滞在型観光は、観光客が長期間滞在し、地域の文化や日常をもっと深く味わってもらうことを目指すものです。柳川市には美しい景観や食文化、歴史的な施設が多いため、観光客がゆっくりと滞在することで、地域全体に経済的な波及効果を生む可能性があります。

例えば、宿泊施設の多様化や、長期滞在向けの観光プランを提供することが重要です。最近では、民宿やゲストハウスなどの多様な宿泊施設が増えてきており、観光客は滞在中に地域の生活を身近に感じることができます。また、地域の特産品を使った料理を楽しんだり、周辺の観光地をじっくりと巡ることができるようなプランを作ることで、観光客の滞在時間を延ばすことができるでしょう。

○滞在時間を延ばす取り組み

滞在時間を延ばすための取り組みは、観光地の魅力を活かしながら、観光客が滞在したくなるような工夫をすることです。柳川市なら、観光客が滞在中に次々と新しい体験をし、飽きずに楽しめるような仕組みを作ることが重要です。例えば、朝の散策や地元の市場見学、昼食後の文化体験や季節ごとのイベント参加など、滞在中の時間帯に合わせた多様なアクティビティを提供することが考えられます。

また、観光施設やアクティビティ同士を連携させて、パスや割引券などを提供することで、観光客が長時間滞在する動機付けができます。例えば、「柳川の歴史散策パス」や「地域特産品を使った料理体験パス」などを作成し、観光の計画を立てやすくすることが効果的です。

○総 評

体験型観光や滞在型観光を推進することは、柳川市にとって非常に有益だと感じます。観光客にとって、ただ観光するだけでなく、その地域で特別な体験ができることは大きな魅力となります。また、滞在時間を延ばすための工夫を行うことで、観光客の満足度を高めると同時に、地域経済にも好影響を与えるでしょう。

坂井市も素晴らしい自然や文化、歴史をもっと深く知ってもらうために、体験型や滞在型の観光施策が一層充実すると、今後ますます多くの観光客が訪れ、地域全体が活気に満ちた場所になると期待できます。

31日（金）競艇事業および競艇選手の育成について

柳川市大和町のボートレーサー養成所で行われている全寮制教育、特に「礼と節」や「不屈のプロフェッショナル精神」を育成する教育方針について、視察見学を通じての感想を考えてみます。

○視察見学で感じたこと

まず、養成所における全寮制教育の重要性を実感しました。寮での生活を通じて、ボートレーサーとしての技術や体力だけでなく、人としての基盤となる礼儀や節度を身につけることができる点に大きな魅力を感じました。ボートレーサーとしてだけでなく、一人の社会人として成長するための教育がしっかりと組み込まれていることが、特に印象的でした。

○礼と節の教育

礼と節を重視する教育方針に関して、ボートレーサーとしてだけでなく、社会に出た時にも必要とされる基本的なマナーや規律がしっかりと教えられていることに感銘を受けました。競技の世界では、仲間や指導者、対戦相手との関係が重要であり、そこにおける礼儀や節度が非常に大切だと感じました。日常生活の中で礼儀作法や自己管理が徹底されていることで、選手としての精神力も自然に養われていくのだろうと感じました。

また、選手たちが互いに尊敬し合い、競い合う中でその精神が育まれていく姿勢を目の当たりにしました。これは単に技術や体力を鍛えるだけではなく、人間性を育てるために不可欠な要素であり、ボートレーサーとしての「品格」を作り上げていく大切な部分だと感じました。

○不屈のプロフェッショナル精神の育成

不屈のプロフェッショナル精神を育てるための取り組みも非常に印象的でした。ボートレーサーという職業は、厳しい競技であり、精神的にも肉体的にも高いレベルを要求されます。視察を通じて、選手たちがどれほどの努力を重ねているのか、その姿勢に感銘を受けました。トレーニングの過程で求められる忍耐力や努力、さらには競技に対する「熱意」や「集中力」が、まさに不屈の精神を支える基盤となっていることを実感しました。

特に、失敗や挫折を経験しながらもそれを乗り越えようとする姿勢が強調されており、プロフェッショナルとしての強い意志が一貫して教えられている点が素晴らしいと感じました。このような教育が、選手たちが高い競技力を発揮するための原動力となり、レースの場でも冷静かつ力強いパフォーマンスに繋がっていくのでしょう。

○施設と環境

養成所の施設全体が、選手の成長を支えるために非常に整っていることに驚きました。トレーニング施設や食事、休養の環境までが、選手たちの心身の成長を考慮して作られていることが伝わってきました。特に、寮生活の中での規律や協調性を育むた

めの工夫が随所に見られ、プロフェッショナルなボートレーサーとしてだけでなく、人としての成長を促す場所であると感じました。

○総 評

ボートレーサー養成所における教育方針は、単なる技術や体力を養うだけでなく、礼と節、プロフェッショナル精神を重視した人間形成の場であると感じました。選手としてだけでなく、社会で活躍できる人間を育てることを目指している点に強く共感しました。施設内の雰囲気や取り組みが非常に整っており、選手たちが安心して成長できる環境が整っていることに感動しました。

このような教育が、未来のボートレーサーたちを支え、競技の枠を超えて社会全体に貢献する人材を生み出すことに繋がると確信しました。柳川市にとっても、この養成所は地域の誇りとなり、今後さらに多くの才能を育成する重要な施設であり続けることでしょう。

【 上坂 健司 】

29日（水）長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市議会では、「開かれた議会、親しまれる議会機能を備えた庁舎」という目指す姿に基づき、傍聴しやすい環境整備やスクリーン、モニター、プロジェクター等の設備機器を適切に設置し、傍聴者にわかりやすく、議論を深められる環境づくりをされている。特に、本会議や議会運営委員会等の会議における発言した内容をリアルタイムで文字起こしができる AI 会議録作成システムを導入した会議録作成の業務の負担軽減や効率化及び聴覚に障害がある方をはじめ、多くの方がより議会を傍聴しやすくなるシステムの活用した字幕表示は素晴らしく大変に参考になる視察であった。

30日（木）柳川市の観光振興について

柳川市は人口6万人余りの本市より小さなまちだが、年間123万人の観光客が訪れる観光都市で観光消費額も64億円を突破、宿泊客は12万2千人、外国人観光客は15万人弱で特に台湾からの比率が大きく伸びている。なかでも川下りは全国に知られ、中心地の水郷を生かしたまちづくりは「伝統的文化都市保存地区」として整備されたものである。

市の観光第2のエンジン創出事業として、有明海と干拓ツーリズムとして、むつごろうランドを公園部分中心に整備、体験農園も加え、体験型観光として修学旅行受け入れや、にぎわい創出イベントなど事業展開している。坂井市の長期滞在・滞留観光・外国人観光客など大いに参考になった視察であった。

31日（金）競艇事業および競艇選手の育成について

一般社団法人、日本モーターボート競争会はこの地に養成所を構え、基本は礼と節、不屈のプロフェッショナル精神を育成する全寮制教育で、1人1,800万円の教育費を補填している。選手の養成訓練は、基礎過程・応用課程・実践過程で訓練生活を送っている。また、審判員及び検査員の養成訓練や選手・審判員・検査員の定期訓練も行われ公正・安全なレースを円滑に行うための初心回帰を目的に実施している。充実した訓練施設で、道は険しくても、大きな夢と希望に向かう訓練生は頼もしく、業界

の発展に尽くしていただきたい。

【 後藤 寿和 】

29日（水）長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市の議会 ICT 化は坂井市議会と同じ SideBooks を活用したペーパーレスシステムでおこなっていました。やはり議会で使われている中で一番特化しているとのことでしたが、坂井市と違ったのは、貸与している iPad 端末は、個人の Apple ID を使い、端末の中にインストールしているアプリは自由にできることでした。個人の自由だが、議員としての資質を信じているからこそ変なものはインストールしないだろうとのことでした。

議場も建て直したばかりなので、最新の取り組みがされており、大変すばらしい議場でありました。

例えば、モニターからはリアルタイムで話した言葉が字幕として出てくる、字幕表示用・手話通訳者表示用 モニター(43 型)が議場に 2 か所、傍聴席に 1 か所と設置されており、非常に見やすい環境になっていました。

正面には 170 型の大型スクリーンにプロジェクターから投影され、先ほどの字幕表示のモニターとは別に、170 型の大型スクリーンを補完する形で、両サイドに大型モニター(85 型)が 2 か所設置されており、これらは一般質問などで議員の持ち込み資料も映し出すことが出来るそうです。

電子採決や残時間表示モニターは本市にも設置されているようなものと同じでした。

また、長崎市議会の議員席は、馬蹄形と言い、全国的にも長崎市議会だけだという U 字型に設置されており特徴的でした。

議場の各席と、傍聴席にはヘルメットも整備してあり防災にも配慮されている議場であり、坂井市議会がこれから整備するのであれば、参考にしたいと思わせるような造りでした。

また、本会議の中継としては、生中継として、長崎ケーブルテレビとインターネットを活用して行われています。

これは、議場にある市議会 AV 操作室で作成した映像を編集せずに放送し、職員がテロップや資料の差し込み操作を行っていました。その後の録画中継として協定書に基づき無償で DVD 映像を貸与してケーブルテレビとインターネットで放送しており、それと別に同じ映像を YouTube でも配信しているそうです。アップロードは職員がしているそうです。

質問で、生中継や Live 配信で不適切な発言等はどうするのかの質問に、昨年ハラスメント的発言があったが、基本的に手を加えずに純粋に放送して注釈を入れ込んだとのこと。対策として、ハラスメントのガイドラインを作り対応しているそうです。また録画の時は、発言の取り消しの申し出があり、その部分だけ編集して放送したそうです。

グループウェアは坂井市議会も導入している LINE WORKS を使っているが、有料バージョンで、データ量の制限がないことをメリットとしてあげていました。データ量の制限がない分、一般質問の通告やその後のデータのやり取り等でも活用されているようでした。坂井市議会も LINE WORKS は有料バージョンに変更を検討していてもよい

の発展に尽くしていただきたい。

【 後藤 寿和 】

29日（水）長崎市議会のICT化の取り組みについて

長崎市の議会 ICT 化は坂井市議会と同じ SideBooks を活用したペーパーレスシステムでおこなっていました。やはり議会で使われている中で一番特化しているとのことでしたが、坂井市と違ったのは、貸与している iPad 端末は、個人の Apple ID を使い、端末の中にインストールしているアプリは自由にできることでした。個人の自由だが、議員としての資質を信じているからこそ変なものはインストールしないだろうとのことでした。

議場も建て直ししたばかりなので、最新の取り組みがされており、大変すばらしい議場でありました。

例えば、モニターからはリアルタイムで話した言葉が字幕として出てくる、字幕表示用・手話通訳者表示用 モニター(43 型)が議場に 2 か所、傍聴席に 1 か所と設置されており、非常に見やすい環境になっていました。

正面には 170 型の大型スクリーンにプロジェクターから投影され、先ほどの字幕表示のモニターとは別に、170 型の大型スクリーンを補完する形で、両サイドに大型モニター(85 型)が 2 か所設置されており、これらは一般質問などで議員の持ち込み資料も映し出すことが出来るそうです。

電子採決や残時間表示モニターは本市にも設置されているようなものと同じでした。

また、長崎市議会の議員席は、馬蹄形と言い、全国的にも長崎市議会だけだという U 字型に設置されており特徴的でした。

議場の各席と、傍聴席にはヘルメットも整備してあり防災にも配慮されている議場であり、坂井市議会がこれから整備するのであれば、参考にしたいと思わせるような造りでした。

また、本会議の中継としては、生中継として、長崎ケーブルテレビとインターネットを活用して行われています。

これは、議場にある市議会 AV 操作室で作成した映像を編集せずに放送し、職員がテロップや資料の差し込み操作を行っていました。その後の録画中継として協定書に基づき無償で DVD 映像を貸与してケーブルテレビとインターネットで放送しており、それと別に同じ映像を YouTube でも配信しているそうです。アップロードは職員がしているそうです。

質問で、生中継や Live 配信で不適切な発言等はどうするのかの質問に、昨年ハラスメント的発言があったが、基本的に手を加えずに純粹に放送して注釈を入れ込んだとのこと。対策として、ハラスメントのガイドラインを作り対応しているそうです。また録画の時は、発言の取り消しの申し出があり、その部分だけ編集して放送したそうです。

グループウェアは坂井市議会も導入している LINE WORKS を使っているが、有料バージョンで、データ量の制限がないことをメリットとしてあげていました。データ量の制限がない分、一般質問の通告やその後のデータのやり取り等でも活用されているようでした。坂井市議会も LINE WORKS は有料バージョンに変更を検討していてもよい

時期に来ていると感じました。

これらの事も踏まえて、坂井市議会も ICT 化フェーズ2に移行していく時期に来ているのではないのでしょうか。

30日(木) 柳川市の観光振興について

柳川市は、その独自の水郷景観を活かした観光施策を積極的に推進しており、観光資源の有効活用と地域経済の活性化に取り組んでいる点が印象的でした。

柳川市の観光で一番有名なところは川下りです。市内に張り巡らされた堀割、江戸時代の柳川城の周りを約4キロの堀割を70分かけてゆっくりとめぐります。我々も乗船しましたが、12月～2月は『こたつ船』として運行されており、多少の寒さでも暖かく乗船できました。かつて堀割の水は、飲み水や料理、洗濯などの生活に欠かせない水だったそうです。

この川下りは体験型観光として素晴らしい体験であり、特に船頭ガイドが、船を漕ぎながら丁寧な解説や、乗客を飽きさせないような色々な逸話や歌など歌ってくださるので、70分の川下りはあっという間でした。

柳川は北原白秋の故郷です。同じく柳川出身の小説家長谷健原作の、北原白秋の少年時代を描いた『からたちの花』が昭和29年に映画化されました。当時はSNSなどなかったにもかかわらず、国民の娯楽が映画であったこともあって、絶大なコマーシャルになったそうです。「あの船遊びを」との声が数多く寄せられ地元住民がおもてなしとして川下りを始めたそうです。

昔はこの船に乗って嫁入りした文化があり、現在は川下り+ウェディングツーリズムとして中長期的に写真撮影～披露宴までの一貫型の商品造成を検討しているそうです。

柳川のグルメとしては『鰻の蒸籠蒸し』『柳川鍋』、有明海の海苔、豊富な魚介類と沢山あり、特に九州産業大学と共同して『鰻の蒸籠蒸し』のうなぎめしMAPを作成し交流人口・滞在時間を延ばしていました。

柳川市の施策として、『川下り』やグルメなどがある地区を静かな観光『静』とし、その反対の地区で、活発な活動をしていく『柳川むつごろうランド』を整備し『動』の地区としています。

『柳川むつごろうランド』は昭和60年度につくられた施設ですが、平成20年度から3か年かけ、有明海干拓地を体験出来る公園作りを方針として、多くの市民の方々に楽しんでいただける施設へとリニューアルされました。

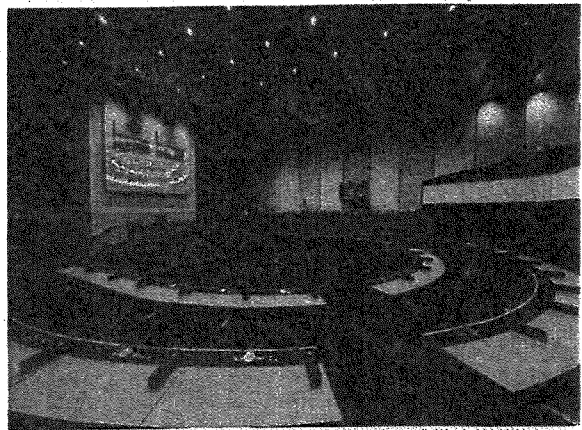
この『静』と『動』の地区をループ化して回遊できる仕組みづくりを進めているとのこと。

柳川市は平成21年度から当時唯一観光専科を有する九州産業大学と連携し、観光施策の発展に取り組んでいる点も注目すべきポイントでした。

産官学連携による研究や地域振興プロジェクトの推進を通じて、観光の新たな可能性を探る試みがなされています。大学生によるアイデアの提案やフィールドワークを活かした取り組みは、地域に新しい視点をもたらし、より魅力的な観光コンテンツの開発につながると考えられます。こうした学術機関との協力は、持続可能な観光の実現に向けた有効な手法と感じました。



長崎市議会議場



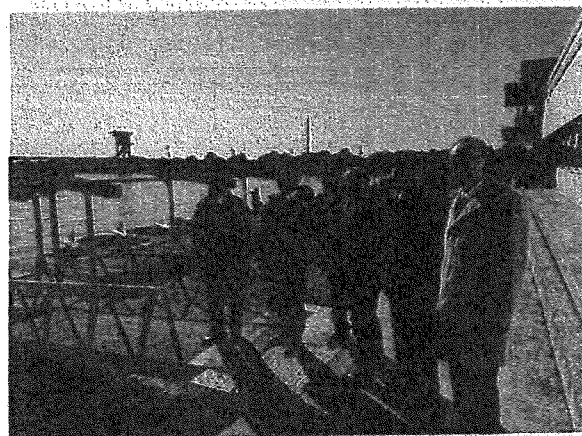
長崎市議会議場



柳川市議会議場



むつごろうランド現地視察



日本モーターボート競走会ボートレーサー養成所



実践型の模擬レースの風景

会 派 内 供 覧

